

平成 30 年度第 3 回エネルギー推進部会 発言要旨

日 時：平成 31 年 3 月 18 日（月）午前 9 時 55 分 ～ 午前 11 時 15 分

場 所：西宮市役所 本庁舎 6 階 681 会議室

出席者：野島委員、小川委員、野村委員、那須委員、山崎委員、内田委員、曾我部委員、北詰委員、
渡辺委員、加美田委員

事務局：環境局 須山局長

環境総括室 廣田室長

環境学習都市推進課 岩田課長、八木係長、吉田係長、高坂副主査

欠席者：なし

1. 平成 30 年度実施事業について

- （事務局より説明）
- 来年度に向けて、そろそろメニューを変えていく時期ではないか。SDGs が一般の人に多少なりとも浸透している時期にさしかかっている。そのままだと使いづらさが、橋渡しのメニューを考えていけばいいのでは。（委員）
- 事業所でも SDGs の講習会を実施している。そういったものも考えていけばいいのでは。来年度は、太陽光発電の売電価格も変わるが、今後の補助金の予定は。（委員）
→補助金は継続する予定。ただ、今後ずっと同じ形で継続する、というわけではない。来年度は現状と同じ、という程度。（事務局）

2. 第二次西宮市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について

- （事務局より説明）
- 25 ページのグラフで、「BAU（趨勢予測）」は、一般の人にはわかりにくいのでは。どこかに説明があればよいが。（委員）
- 環境省の施策などをコラムで紹介する、というのはこれでよい。紹介したうえで、来年度以降はその施策に乗った形で実施していく、学術畑としては、さらに上回るような施策を実施していく、と読めるので、奮起していただきたい。（委員）
- 5 ページのグラフで、2018 年のデータが 2 つ（3 月末、9 月末）あるが、それでよいか。（委員）
→3 月末には目標達成していなかったが、9 月末に目標達成した、という意図で作成した。（事務局）
- この計画は 4 月に発行することになる。（目標を）達成した、という状況の中で、低い目標値の設定のままでいいのか。発行時点で目標が達成できているのに、なぜ表示されているのか、という疑問が生じる。（委員）
→（前計画である）「再生可能エネルギー・省エネルギー推進計画」の目標は達成し、次の計画では別の目標を設定している。（事務局）
- 現在の目標と過去の目標が混在しているのでややこしい。一般の人は、グラフをそのまま読むので、後退している、との印象を受ける。説明を補足した方がよい。（委員）
→修正する。（事務局）

- 45 ページの「循環型社会の形成」で、2R の説明はこの部分のみか。この部分だけだと、3R のうちのどの 2R かがわかりにくい。2R を重点化する記述をしてほしい。「紙の資源化」とあるが、紙以外の資源についても述べる。一般廃棄物処理計画とすり合わせをする必要がある。(委員)
- 国が「脱炭素」を掲げている中で、スロースタートで「低炭素」でいいのか。神戸市や宝塚市も脱炭素を掲げている。兵庫県内の他市とのバランスを考え、中間見直し、あるいはもっと前の段階で見直しが必要になるのではないか。(委員)
- (計画の終期である) 2028 年には、完全に脱炭素になっている。中央(国)では脱炭素という言葉が飛び交っているので、脱炭素の言葉を入れていただきたい。(委員)
→上位計画との関係もあり、脱炭素を入れるのは困難である。モニター調査の実施などを踏まえて、中間見直しで検討するが、今回はこのままとしたい。(事務局)
- 今年の G20 大阪サミットにおいて、新たな流れが出される可能性がある。欧州のバージンプラ(原料)拒否という大きな流れで、日米が恥をかいたということもあるので、そこが変わる可能性がある。兵庫県でもまだ脱炭素を言っていないが、国際的な流れが急になっている状況で、大きな政策転換といかないまでも毎年の PDCA の中で少しずつ変えていく、というスピード感でやっていかなければ追従しにくくなる。(委員)
- 計画の配布時期・方法はどうか。(委員)
→現行計画と同様で考えている。教育委員会との調整や、他の 2 つの部門別計画とあわせた予算措置など厳しい部分もあるが、周知を図っていききたい。(事務局)
- 事業者として、トライやるウィークの受け入れなども含めて協力していききたい。(委員)
- エココミや青愛協で、難しいところはあるが、周知など協力していききたい。(委員)
- 関西電力でもエネルギー教室などを実施している。西宮東高校などでも原子力発電所の見学を実施しており、お声かけいただければ、協力させていただきたい。(委員)
- 大阪ガスでもエネルギー勉強会などで協力しているので、そういった機会の活用やその他のメニューも利用してもらえれば。(委員)
- 計画の印刷部数は。(委員)
→2,000 部。(事務局)
- 全戸配布ではないのか。(委員)
→市政ニュースやホームページで告知して希望者に配布、という流れになる。(事務局)
- モニター事業に協力いただく団体などに配るなどしていただきたい。(委員)

3. 第 3 次西宮市環境基本計画について

- (事務局より説明。質疑なし。)

4. モニター事業について

- (事務局より説明)
- 関西電力や大阪ガス以外のユーザはどう回答するのか。このモニター結果をどう施策に反映させていくのかイメージがわからない。数年後にエコハウスなどの普及が進むことを見越して、それらに対する関心の有無を調べるようなアンケート項目を入れてみては。個人的に、この事業は比較的環境の意識が高い方、追従型トップランナーで考えているのだが。(委

員)

→そういったアンケート項目は入れずに、電気・ガスの使用量のみを記載してもらうこととしている。(事務局)

- 各団体に依頼する、ということで、そこまでのトップランナーに、ということではない。(委員)
- この事業のスタートとして、市域のエネルギー使用量の数字が把握できない、というところにある。建て方や世帯人数とデータを把握して、エネルギー使用量の推計値を出す、という流れで、施策はそれから、という点でご了承いただきたい。(委員)
- 自社分については、データを提供しているが、他社分については提供できない、ということでご迷惑をかけている。送配電事業が完全分社化に合わせて、システム構築を進めているところであり、来年4月分からは、(送配電事業の)新会社から市域全体のデータが提供できる見込み。(委員)
- この事業では、環境計画推進パートナーシップ会議に参画している団体を通じて、今まで環境に関わりがなかった方々に声をかけてもらうこととしている。(委員)
- そういうやり方はよい。(委員)
- 他の青愛協の方は、「どうやって頼めばよいか分からない」という声が多い。渡すタイミングでどう説明すればよいか、役員向けに資料がほしい。(委員)
- 確かにこれだけではわかりにくい。(委員)
- 「こういう流れがあって、こういう必要があり・・・」といったフォローがなければ、1,000枚配布しても100枚しか回収できない、ということになりかねない。(委員)
- 「省エネ行動モニター事業」だが、「電力使用量モニター」として、「データを教えてください。データがないと前に進めない」くらいのことを言ってもいいのでは。裏には省エネ行動をとる、ということも含めてタイトルなども見直してみても。(委員)
- 最終的には排出量算出につながっていくと思うが、電力会社ごとに排出係数が違うので、電力会社も記入してもらう必要もあるのではないかと。(委員)
- エネルギーはゴミと違って取り組みにくい。緩やかに市民を巻き込んでいく土台作りとして実施。各団体の方が500くらい協力してくれる、ということであれば、横つながりの展開として意味はある。(委員)
- 問い合わせに備え、想定問答集を作っておいたほうがいい。モニター用紙を紛失した、提出したくない、他人と比べられるのは嫌だ、などの問い合わせが予想される。(委員)
- 市役所がもっている、住所や世帯などのデータとクロス集計ができれば、そこから施策検討が可能になる。(委員)

4. その他

- 次回の開催日は未定。改めて連絡する。(事務局)